



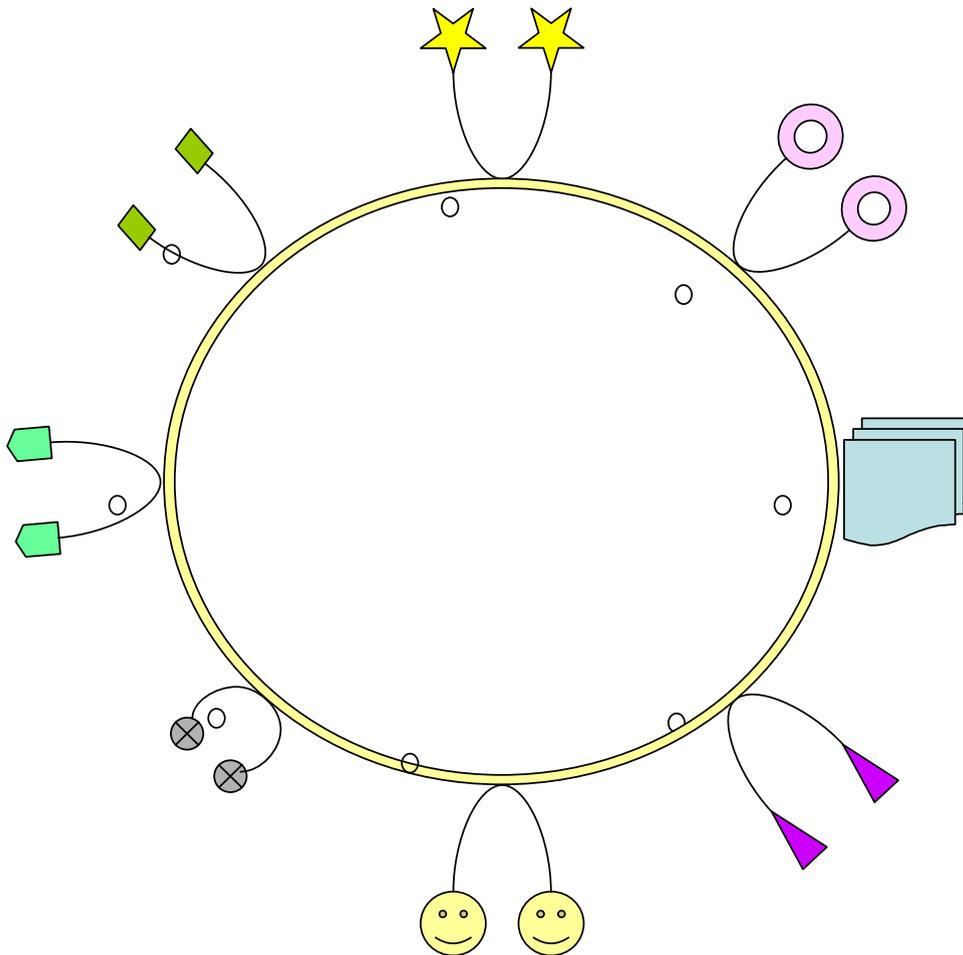
# IP時代の情報通信政策研究課題

林 敏彦

<http://www.stanford-jc.or.jp/research>

2005年4月8日

# IPネットワーク





# 課題整理

	ビジョン	産業構造	制度	運用
インフラ1	インフラ投資			
インフラ2	ボトルネック			
インフラ3	ユニバーサル・サービス			
プラットフォーム	プラットフォーム			
コンテンツ	コンテンツ			



# インフラサービス

- **ファシリティ・ベースの競争**
  - 規模の利益あればFBC成立せず。
- **新しい社会契約**
  - ファンド方式、公社方式、料金規制方式
- **技術進歩の市場化**
  - 開発の技術インセンティブ、開放の技術インセンティブ



# ボトルネック設備

- **多アクセスモード時代のボトルネック性**
  - 銅線、NTT光ファイバ、電力系光ファイバ、無線、無線LAN
- **足回りだけがボトルネックか**
  - 局舎スペース、電気設備、加入者系、エンドユーザ端末、ルータ、交換機、ISP設備、IX設備
- **誰の目から見たボトルネック性か**
  - エンドユーザの視点、事業者の視点、公共性の視点
- **設備開放と設備投資インセンティブ**
  - アンバンドル化、非対称的開放義務、アクセス料金

# デジタルデバイス

- **ユニバーサル・サービス概念の拡張**
  - アナログ電話、VOIP、インターネット
- **物理的アクセシビリティ / リテラシー / アフォーダビリティ**
  - 光設備の地理的拡充、学校、BB料金
- **ユニバーサルサービス・ファンド / 外部補助**
  - USFの活性化、岡山県方式
  - アジアUSFの構想



# プラットフォーム

- インフラかサービスか
  - 公共性のメルクマール、政策的関与の可能性
  - 私的供給とロックイン効果の弊害
- どの範囲のプラットフォームか
  - ビジネス(個人認証、課金、P、S等)
  - 医療(個人認証、P、S)
  - 民主主義(個人認証、投票、P、世論形成)
  - 行政(個人認証、電子書類、P)

# コンテンツ

- **産業振興の視点**
  - コンテンツ市場、デジタル商品市場、財産権としての著作権
- **文化振興の視点**
  - 表現の自由、人格権としての著作権、生涯学習、品位、公序良俗、多文化社会
- **安全・安心の視点**
  - 表現の自由、緊急時情報、犯罪、ローカル情報

# 情報通信政策研究プログラムの概要(案)

## 設立趣旨

わが国情報通信産業の抱える重要課題について、実践的な複数の政策手段の効果、限界について理論的、実証的に分析すること等を通じて、行政サイドを含むすべての関係者が共通認識を持ち、より深化した政策論議を行うことを目指す。

## 発起人

- ・林敏彦(放送大学教授、スタンフォード日本センター理事長)
- ・他交渉中

## 情報通信政策研究プログラム

事務局：  
スタンフォード日本センター

## テーマ選定会議

助言・相談

総務省

## 研究会

### ワークショップA

主査指導の下、  
若手研究者が  
研究を行う工房

### ワークショップB

主査指導の下、  
若手研究者が  
研究を行う工房

## 情報発信

成果としての論文  
を内外の学会誌に  
掲載等、情報発信  
機能を充実させる。

## シンポジウム

研究会の成果を内外  
の有識者で議論

オブザーバーでの参加

情報提供(任意)

学術的政策提言(任意)



個別研究テーマ